

令和元年度 事務事業評価シート(詳細) ※平成30年度に実施した事業を評価しています

基本情報

事務事業名	総合型地域スポーツクラブ育成事業			
担当部署	文化スポーツ部	スポーツ振興課	事業コード	6
所属長	石川 辰生		事業区分	ソフト事業
予算事業名	生涯スポーツの充実		新規・継続	継続
予算事業コード	会計	10	款	02
			項	01
			目	19
			事業開始年度	平成14年度

1. 事業の位置付け、関連事業及び法令による実施義務等(Plan)

第四次川越市総合計画上の位置付け(太枠内)

基本目標(章)	第3章	歴史と文化を感じながら学びあい、豊かな心を育むまち	法令による実施義務	義務ではない
施策	17	生涯スポーツの推進	根拠となる法令	なし
取組施策	1	総合型地域スポーツクラブの設置・育成	その他実施根拠(条例、要綱等)	川越市総合型地域スポーツクラブ補助金交付要綱
関連事業	なし			

2. 事業の目的と概要(Plan)

実施主体	補助金
対象(誰・何を対象に)	地域スポーツクラブ
目的(対象をどのようにしたいか)	地域において、子どもから高齢者、障害者まで、だれもが参加できる総合型地域スポーツクラブの設立・育成を行い、スポーツを通じた世代間交流や地域社会の活性化を図るとともに、地域住民の生涯スポーツを推進するために実施する。
事業の概要(活動内容、実施手段・方法など)	補助金によるクラブ支援とともに、クラブが地域のニーズに応じた活動を行い、より多くの方がスポーツに親しむことができるよう、クラブの運営に対して、支援を行う。設立を目指す地区に対しても、推進していく役員間での共通理解を図りつつ、地域への周知等、クラブ設立に向けた準備に対して支援を行う。

3. 前年度に立てた計画(Plan)

クラブが地域のニーズに応じた活動を行い、より多くの方がスポーツに親しむことができるよう、クラブの運営に対して支援を行う。新たに南古谷地区へのクラブ設立に向け、推進していく役員間との調整や、地域への周知等、設立に向けた準備に対して支援を行う。

4. 取組実績(Do)

平成28年度より「ふくはらスポーツクラブ」が創設され、市内の総合型地域スポーツクラブは4クラブとなっている。4クラブ中、3クラブに補助金を出している。
南古谷地区へのクラブ設立に向け、推進していく役員への打診、意思確認を行った。
各クラブにおいては、毎月1回の運営委員会を開催し、事業の提案・報告等について会議を行っている。
各地域の実態に応じた、スポーツ教室・スポーツ大会を企画、運営することができた。

5. 実施にかかるコスト(Do)

(単位:千円)

(1) 支出の部	28年度	29年度	30年度	元年度(見込額)	備考
人件費 A	747	760	763	763	【事業費】 31年度については、新規クラブが設立された場合の補助金は見込んでいない。
正規職員(1年間の従事人数)	0.10人	0.10人	0.10人	0.10人	
臨時職員(1年間の従事人数)	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	
事業費 B	750	750	750	750	
補助金	750	750	750	750	
総支出(A+B)	1,497	1,510	1,513	1,513	

(2) 収入の部

国庫支出金	0	0	0	0	
県支出金	0	0	0	0	
地方債	0	0	0	0	
使用料・手数料	0	0	0	0	
その他特定財源	0	0	0	0	
一般財源	1,497	1,510	1,513	1,513	
総収入	1,497	1,510	1,513	1,513	

6. 指標による分析 (Check)

(1) 活動指標

評価指標	単位	28年度	29年度	30年度	元年度(予定)	単位当たり費用 (下段は前年度)
						#DIV/0!
指標の定義・説明						#DIV/0!
						#VALUE!
指標の定義・説明						#VALUE!

(2) 成果指標

評価指標	単位	28年度	29年度	30年度	元年度目標値	将来目標値	単位当たり費用 (下段は前年度)
総合型地域スポーツクラブの数	クラブ	4.0	4.0	(目標) 5.0 (実績) 4.0	5.0	2年度 5.0	378.25
指標の定義・説明	市内に創設された総合型地域スポーツクラブの数						377.58
総合型地域スポーツクラブの参加者数	人	6,308.0	7,860.0	(目標) 8,000.0 (実績) 8,621.0	9,000.0	2年度 10,000.0	0.18
指標の定義・説明	市内に創設された総合型地域スポーツクラブの延べ参加者数						0.19

7. 評価 (Check)

項目	評価	評価コメント及び課題等
必要性	B	市が関与することが妥当であるか、時代の潮流や市民ニーズに対して目的や内容が合っているか
		地域のニーズに即した生涯スポーツの推進という目的、かつ公共性の面からも市が実施すべき事業である。
有効性	A	施策の目標の達成に貢献しているか
		第四次川越市総合計画の取組施策 (No.17-1) に明示されている事業である。
達成度	B	設定した活動・成果指標の目標を達成しているか
		クラブ数においては、現状維持にとどまった。 なお、延べ参加者数においては、目標値に達し順調に推移している。
効率性	B	民間委託や指定管理者制度の導入は可能か、コスト削減の余地はあるか、受益と負担(補助)の適正化が図られているか
		地域の自主的な活動支援として、必要最小限の人員で事業を行っており、コスト削減の余地があるとすれば、補助金を減額する以外にないものと認識はしている。
総合評価	A	今後設立を目指す団体へは他クラブへの視察や教室開催の支援を行っており、概ね順調に進捗している。

8. 今後の方向性及び今後の取組(改善策など) (Action)

今後の方向性	改善
元年度	「高齢者の生きがいづくり」「親子や家族・世代間の交流」「地域教育力の向上」等、地域の課題を解決するため、また、地域の活性化や地域住民の生涯スポーツの振興の推進に寄与するものとして支援を行っていく。 有効性や公平性を明確にしていくための受益者負担等、クラブ運営の工夫に努めるとともに、今後クラブが自立するよう支援を行っていく。また、新たなクラブ設立に向け、周知・啓発をさらに活発にしていく。
2年度	「高齢者の生きがいづくり」「親子や家族・世代間の交流」「地域教育力の向上」等、地域の課題を解決するため、また、地域の活性化や地域住民の生涯スポーツの振興の推進に寄与するものとして支援を行っていく。 有効性や公平性を明確にしていくための受益者負担等、クラブ運営の工夫に努めるとともに、今後クラブが自立するよう支援を行っていく。また、新たなクラブ設立に向け、周知・啓発をさらに活発にしていく。

【参考】

(1) 比較参考値(他市での類似事業の例など)

--

(2) これまでの見直しや改善等の経過

--